

## 平成 30 年度第 1 回人吉球磨定住自立圏共生ビジョン懇談会 議事録

・日時：平成 31 年 2 月 5 日（火）14 時 00 分～15 時 40 分

・場所：人吉市東西コミュニティセンター 2 F 会議室

・出席者（敬称略）

（ビジョン懇談会委員）19 名／23 名中の出席

市町村	団体名（所属）	役職名	氏名	出欠
人吉市	熊本県立大学総合管理学部	教授	井田 貴志	出
	人吉市医師会	会長	岐部 明廣	出
	人吉温泉観光協会	副代表理事	川野 精一	出
	球磨焼酎酒造組合	理事	下田 文仁	欠
	人吉商工会議所	専務理事	今村 修	出
	くま川鉄道株式会社	取締役社長	永江 友二	出
錦町	球磨地域農業協同組合 （中央営農センター）	センター長	川邊 倉光	欠
	錦町農業委員会	会長	石松 まゆ子	出
多良木町	球磨郡公立多良木病院企業団	事務長	小谷 節雄	出
	多良木町文化協会	会長	竹原 篤子	出
湯前町	湯前町区長会	会長	柳瀬 鐵男	出
	湯前町文化財保護委員会	委員長	溝下 昌美	欠
水上村	水上村中学校 P T A 連絡協議会	会長	杉野 久志	出
	水上村社会福祉協議会	福祉活動専門員	堤 祐子	出
相良村	相良村商工会	青年部長	小村 哲典	出
	相良村有害鳥獣捕獲隊	隊長	森松 栄	出
五木村	株式会社 子守唄の里五木	駅長	豊永 信治	欠
山江村	NPO 法人かちやリンクやまえ	専務理事	本山 民子	出
	山江村民生委員児童委員協議会	会長	中村 征生	出
球磨村	球磨村森林組合	参事	薮 初美	出
	球磨村教育委員会	教育委員	中井 久美	出
あさぎり町	あさぎり町深田校区婦人会	会長	白柿 悦子	出
	人吉球磨地域女性農業委員ネットワーク	会長	宮原 久子	出

(幹事・オブザーバー)

団体名 (所属)	役職	氏名
錦町 企画観光課	課長	深水 英雄
多良木町 総務課	課長	松本 和則
湯前町 総務課	課長	本山 りか
水上村 総務課	課長	田代 浩章
相良村 総務課	課長	川邊 俊二
五木村 総務課	課長	下内 泰臣
山江村 総務課	課長	白川 俊博
球磨村 企画振興課	課長	高永 幸夫
あさぎり町 企画財政課	課長	片山 守
熊本県 県南広域本部 球磨地域振興局 総務振興課	審議員兼課長	牛島 主税
熊本県 県南広域本部 球磨地域振興局 総務振興課	参事	立花 ちどり

(部会・推進協議会事務局)

部会名 (所属)	役職	氏名
救急医療部会、健診部会、発達相談部会 (人吉市保健センター)	所長	瀧上 麻美
障がい者(児)部会(人吉市福祉課)	課長	金子 尚央
文化部会(人吉市歴史文化課)	課長補佐	西門 弘喜
農業部会(あさぎり町農林振興課)	課長補佐	万江 幸一朗
観光部会(人吉市観光振興課観光企画係)	主幹	池下 英治
企業誘致部会(あさぎり町商工観光課)	主幹	林田 考功
鳥獣害対策部会(湯前町農林振興課)	主事	澁谷 将人
消費生活部会(市民課/人吉市消費生活センター)	課長補佐	松下 俊朗
環境部会(多良木町町民福祉課)	係長	久保 広睦
地域公共交通部会(人吉市企画課交通政策係)	主幹	舟戸 章吾
スマートインターチェンジ部会 (人吉市都市計画課スマートインターチェンジ整備室)	主任	桑原 裕
人材育成部会(人吉市総務課)	課長	丸本 縁
林業部会(人吉市農林整備課林務係)	係長	堂坂 高弘
人吉市企画政策部	部長	早田 吉秀
人吉市企画政策部企画課	課長	椎屋 彰
人吉市企画政策部企画課企画政策係	係長	上村 英明
	主任	丸山 佳子

・議事内容

<p>事務局</p>	<p>皆様こんにちは。ご案内いたしました時間がまいりましたので、只今から平成30年度第1回人吉球磨定住自立圏共生ビジョン懇談会を始めさせていただきます。本日は、お忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。また、皆様方には人吉球磨定住自立圏共生ビジョン懇談会委員のご就任につきまして、快くご快諾頂きまして誠にありがとうございます。本日の会議につきましては、お手元の次第に沿って進めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、「2. 委嘱状交付」に移りたいと思います。</p> <p>お名前をお呼びいたしますので、その場にお立ちいただきまして、松岡市長から委嘱状の交付をお受けいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。</p> <p>～順次、委嘱状交付～</p> <p>なお、委員としてご就任いただくことになっております、球磨焼酎酒造組合 下田様、球磨地域農業協同組合 川邊様、株式会社子守唄の里五木 豊永様、湯前町文化財保護委員会 溝下様におかれましては、本日、所用のためご欠席されることのご連絡をいただいておりますので、ご報告を申し上げます。</p> <p>それでは、引き続き松岡市長がご挨拶申し上げます。松岡市長、よろしくお願いいたします。</p>
<p>人吉市長</p>	<p>皆さまこんにちは。本日は大変お忙しい中、当会議にご出席いただきまして誠にありがとうございます。また、これまでお引き受けいただきました皆様、また新たにお引き受け頂きました皆様、これからの2年間よろしくお願いいたします。</p> <p>さて、人吉球磨地域は10市町村ご存じのとおりございまして、それぞれの自治体が独自に取り組んでいること、また1つになって又は連携しながら取り組んでいること、この二つの側面があるかという風に存じます。このビジョン懇談会では、特にそれぞれの自治体が一体となって取り組むことについて皆さま方にご議論をいただいていたところでございます。平成27年5月にビジョンを策定いたしまして、早4年経とうとしておりますが、うまく進んでいる事業、これから更に連携を深める必要がある事業、そして様々な取組が進める中でそういった見直しが必要な時期という風になっております。また、様々な成果や課題も見えてきたところがございます。これまで以上に成果が上がった事業などこの定住自立圏によって初めて分かった事業もあるかと存じます。この定住自立圏構想は、1つ1つの市町村ではなかなか成しえないものを相互協力のもと実現に向かって進むための最善の取組みではないかという風に考えております。当地域におきましても自治体の垣根を超えた圏域的な取組といたしまして、昨年、日本遺産人吉球磨観光地域づくり協議会が発足をしております。また、公共交通、商工業、福祉、産業基盤の整備などあらゆる面でこれまで以上の連携が求められていくとともに、この地域の強みを生かした施</p>

	<p>策の展開を図っていく必要があるというふうに思っております。これからの人吉球磨全体の発展のためにも、この定住自立圏の取組みはその効果を出すものであり、このように一体となって取り組むことが重要かという風に考えております。本日はそれぞれのお立場から忌憚のないご意見を賜りたいと存じます。それではどうぞよろしくお願いたします。</p>
事務局	<p>ここで、市長につきましては、次の公務がございますので、退席をさせていただきます。(市長退席)</p> <p>次に、次第の4、委員、幹事会、オブザーバー、事務局の紹介でございます。</p> <p>お手元に、「人吉球磨定住自立圏共生ビジョン懇談会委員名簿」という両面刷りの名簿を配付させていただいております。本日は、懇談会委員の皆様をはじめ、各市町村の定住自立圏担当課長様、球磨地域振興局総務振興課長様、各部会のご担当者様等、多数の方にご出席をいただいております。</p> <p>なお、誠に申し訳ございませんが、時間等の都合上、ご紹介につきましては、お手元の名簿に変えさせていただければと存じますので、ご了承下さいますよう、よろしくお願いたします。</p> <p>それでは次に、次第の「5. 会長・副会長の選任」について協議をさせていただきます。会長及び副会長の選任につきましては、人吉球磨定住自立圏共生ビジョン懇談会設置条例第5条第2項で委員の互選により定める。と規定されておりますので、どなたか立候補あるいは推薦はございませんでしょうか？</p>
永江委員	<p>会長、副会長につきましては、これまでビジョン懇談会をスムーズに進行いただくとともに様々にまたがる分野の議論を取りまとめてこられた実績を踏まえ、熊本県立大学の井田委員と多良木町文化協会の竹原委員の再任でいかがでしょうか。</p>
各委員	(拍手多数)
事務局	<p>ただ今、永江委員からご意見をいただきましたが、拍手多数ということで皆さま同ご意見ということでよろしいでしょうか。</p>
各委員	(異議なし)
事務局	<p>ただ今、永江委員からご提案がありましたが、井田委員、竹原委員、いかがでしょうか。</p> <p>(井田委員、竹原委員了承) 拍手多数</p> <p>ありがとうございます。ご了承いただきましたので、それでは、井田会長、竹原副会長、よろしくお願いたします。どうぞ、前方の会長席、副会長のほうへご移動をお願いいたします。</p> <p>それでは、会長、副会長が決まりましたので、ご挨拶をいただきたいと思っております。代表していただきまして、井田会長よりご挨拶をいただければと存じます。よろしくお願いたします。</p>

井田会長	<p>皆様こんにちは、熊本県立大学総合管理学部の井田でございます。この度は引き続き会長という重大な役目をご指名いただきまして、謹んで引き受けさせていただきます。先ほど松岡市長のご挨拶にもありましたように、人吉球磨定住自立圏共生ビジョンということで私が携わっていた県内で形成された定住自立圏、山鹿市、天草市、人吉球磨。山鹿、天草は単独合併市型でしたけれども、人吉球磨は10の市町村で取り組むということで、そういう意味では非常に、人吉球磨のこの定住自立圏がどういう方向に進むのかというものが県内でも注目されておりまして、九州内でも注目されているのではないかと思います。その後現在は、八代市を中心に、あるいは玉名市、山鹿市が近隣の市町村と同じく定住自立圏を形成しております。従いまして、この人吉球磨の定住自立圏は次年度が現ビジョンの最終年度ということになっておりますので、各委員の皆様におかれましては現計画が終盤を迎えているというところを十分ご認識のうえで、御忌憚のないご意見をどんどんお出しいただき、各部会に投げて頂きたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。また時間も限られておりますので、円滑な議事進行に努めてまいりますのでご協力のほどよろしくお願いいたします。今後ともよろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。本日は、委員23名中19名の方が出席され、過半数に達しておりますので、ビジョン懇談会設置条例第6条第2項の規定により、この会が成立していることを御報告いたします。</p> <p>議事に入ります前に、資料の確認をさせていただきます。委員様へは先日、郵送でお送りさせていただいております資料に加え、本日、机上にお配りさせていただいた資料があります。お持ちいただいた資料は、右上に資料1～資料7と書いたものです。本日お席にお配りしております資料は3種類です。次第、席次、名簿となります。なお、事前配布資料が届いていない等ございましたら挙手にてお知らせいただけますでしょうか。事務局から資料をお席にお持ち致します。</p> <p><b>【当日資料】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次第</li> <li>・ 席次</li> <li>・ 懇談会委員名簿、(裏)幹事会、オブザーバー、部会、事務局名簿</li> </ul> <p><b>【事前配布資料】</b></p> <p>資料1 人吉球磨定住自立圏構想の概要  資料2 定住自立圏構想推進要綱の概要(国資料)  資料3 人吉球磨定住自立圏共生ビジョン平成31年2月改定内容について  資料4 人吉球磨定住自立圏共生ビジョン進捗状況シート(平成29年度末時点)  資料5 重要業績評価指標(KPI)達成状況表  資料6 重要業績評価指標(KPI)改定案と新旧対照表  資料7 人吉球磨定住自立圏共生ビジョン改定案</p>

	<p>それでは、さっそく議事に入りたいと思います。なお、会の議長は、ビジョン懇談会設置条例第6条第1項で会長と規定されておりますので、井田会長にお願いしたいと思います。井田会長、よろしくお願いいたします。</p>
井田会長	<p>それでは、早速ですが、議事に入ります。本日の協議事項は3件あります。ご覧のように次第に沿って進めさせていただきます。まず「(1) 人吉球磨定住自立圏共生ビジョン概要及び地方財政措置について」を議題といたします。事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>いつもお世話になっております。人吉市 企画課 企画政策係の「上村」と申します。昨年度から、人吉市の担当係長として、本業務に当たらせていただいております。どうぞ、よろしくお願いいたします。それでは、私のほうから、定住自立圏構想の概要についてご説明いたします。大変恐縮ですが、着座にてご説明申し上げます。この件については、すでにご承知の方も多数おられることと存じますが、新しく委員となられた方も多数おられますこと、また、久しぶりの会議でございますので、おさらいの意味で、この「定住自立圏構想」というものについて、簡単にご説明したいと思います。お手元の資料の方は、先日、皆様に郵送いたしておまして、すでに、お目通しをいただいているものと存じますが、順を追って説明いたします。はじめに、「資料1」をご覧ください。こちらに「人吉球磨定住自立圏構想の概要」を記載しております。まず、「定住自立圏構想とは」ということですが、地方から大都市圏への人口流出を抑制するため、総務省が平成21年度から推進する施策でございます。要件としましては、人口5万人程度以上(少なくとも4万人を超えているという状況)で、昼間の人口が多い都市が「中心市」となり、生活・経済面で関わりの深い「近隣市町村」と協定を締結し、定住自立圏を形成することになっております。本地域では、中心市が「人吉市」、近隣市町村が「球磨郡9町村」となります。当初、人吉球磨はこの要件に該当しませんでした。平成25年度に特例措置がなされ、定住自立圏を形成し、現在の取り組みに至っている、ところでございます。事業の進め方としましては、中心市が策定する「定住自立圏共生ビジョン」に沿って、中心市と近隣市町村が相互に役割を分担し、連携・協力することによりまして、圏域全体で、医療・福祉・教育など生活機能の強化、交通・ICTインフラの整備や圏域内外の住民の交流、人材育成など、人口定住に必要な生活機能の確保に取り組むということでございます。こちらにつきましては、「資料2」を1枚めくっていただいたところの「定住自立圏構想推進要綱の概要」の図が見やすいかと存じますが、簡潔に申し上げますと、左側の中心市(ここでは人吉市)と右側の近隣市町村(ここでは球磨郡の9町村)が協定を結び、地域で定住自立圏を形成し、定住促進を行っていくということになります。人吉球磨地域では、去る平成27年1月に圏域10市町村による合同調印式を行いまして、人吉市と球磨郡9町村による1対1の協定を結んだうえで、「人吉球磨定住自立圏」を形成、平成27年5月、「人吉球磨定住自立圏共生ビジョン」を策定し、現在、このビジョンに掲載してござい</p>

	<p>す事業を進めている、ということでございます。ちなみに、「全国での取組状況」ですが、こちらは「資料2」の、今度は4枚めくっていただいたところに、日本地図のような絵があるページがあるかと思いますが、こちらの右下に四角の枠囲みがございまして、そちらに記載がございまして、全国で見ますと、平成30年4月1日現在で、「121（昨年118）」の圏域、510の市町村で、取り組みが進められているところでございます。</p> <p>続きまして、昨年度に行いました「KPIの設定について」、こちらでも簡単にはございませんがご説明申し上げます。資料は、「資料1」の1ページ目下段から2ページ目になります。こちらに「KPI（重要業績評価指数）とは」という項目がございまして、このKPIというものの設定につきましては、平成28年度に国の要項改正（平成28年9月23日付け、定住自立圏構想推進要綱の一部改正）がございまして、定住自立圏共生ビジョンの具体的取組ごとに、「成果指標（KPI）」を設定し、その達成状況を踏まえた施策展開や、事業のPDCAサイクルを構築するよう、要請があったところでございます。このことを踏まえ、28年度から29年度にかけて、各部会にて急ピッチでKPIの設定作業を行いまして、昨年度のビジョン懇談会にお諮りし、平成29年9月にKPI設定を踏まえた共生ビジョンの改定を行ったところでございます。今後は、昨年定めたKPIの進捗管理、目標値の達成に向けた事業の見直し、そして、次期ビジョン改定へ向けた検討・準備を進める必要が出てまいります。次に、この定住自立圏の事業を進めるにあたってのメリット、どのような財政支援等があるのかということでございますが、構想に位置付けた事業には、「特別交付税などの措置」がございまして、こちらにつきましましては、後ほどご覧いただければと存じます。以上で、共生ビジョンの概要等につきましましてのご説明を終わります。</p>
井田会長	<p>ただいま、資料1及び資料2に基づきまして、「人吉球磨定住自立圏共生ビジョン概要及び地方財政措置について」事務局から説明がありましたが、皆様方からご意見ご質問ございましたらお願いいたします。</p>
各委員	<p>（意見等なし）</p>
井田会長	<p>事務局から説明がありましように、当初このビジョンを策定した時には、KPIという数値目標は設定する必要がなかったところですが、途中から国の方針によりKPIを設定するように指示があったところですが、従って、なかなか事業の成果を測る数値目標になっているのかということについて、これは他の定住自立圏自治体も同じことが言えますが、当初いらなかったものを後付けで設定しろとなってきたものだから、なかなかうまくいかないところが多々あります。そうしたところには、指標、ものさしを変えろということも実際にしてまいりました。従いまして、現計画におきましても当初の事業目標とその後の数値目標が完全に一致しているかというところの自治体もクエスチョンがついているのが現状でございますので、今説明がありましたような形で現計画は策定され、遂行され、終盤を迎えていると、そういう現状でございます。</p>

	何か全体的な概要等について特段ございませんでしょうか。
各委員	(意見なし)
井田会長	<p>それでは何かございましたら最後にご発言いただければと思います。</p> <p>それでは引き続きまして、協議事項「(2) 各事業の進捗状況について及び今回の改定内容について」を議題とします。事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>それでは、定住自立圏共生ビジョンに掲載しました「各事業の進捗状況」及び「今回の改定内容」について、ご説明申し上げます。資料の方は、「資料3」と「資料4」の冊子、「資料5」A3両面2枚綴りのもの、そして「資料6」、そして「資料7」を使わせていただきます。なお、説明に当たり、資料が行き来することもございます。その都度、ご説明申し上げますので、お手数ですが、よろしく願いいたします。今回、平成29年度末時点の事業進捗について、共生ビジョンに掲載している各事業について、担当部会事務局がとりまとめを行い、かなりボリュームがありますが、「資料4」にまとめております。本日、この中身全てをご説明いたしますと、かなりのボリュームとなりますこと、また、お時間の都合もございますことから、一例を取りましてどういった調査をしたかをご説明いたします。</p> <p>まず、「資料4」を1枚めくっていただきますと、「具体的な取組内容の体系図(目次)」がございます。ここにあげた事業が共生ビジョンに掲載した全事業となります。項目名のところ、上段がグレーのバーのところになりますが、「政策」「分野」「取組事項」「具体的な取組み」というものが事業体系となりまして、この資料につきまちは、右端の「具体的な取組み」に記載した事業ごとにまとめております。次に、この資料の見方、ということで、参考として記載をしております。こちらにつきまちは、すでにお目通しいただいたことと存じますこと、またこれから改めてご説明しますので、このページの説明は割愛させていただきます。それでは2枚めくっていただきまして、2-1、2-2、2-3とページが続いておりますが、こちらで説明いたします。これは、同じ事業について、関連するように枝番をつけたものになります。まず、2-1ページでございますが、具体的な取り組み事業(個別事業)のうち、「休日在宅当番医制運営事業」のページとなります。事業名の下には、共生ビジョンに掲載した概要、市町村の役割分担、その下に昨年度の改定で追加しました、「重要業績評価指標(KPI)」の内容、基準値(平成27年度時点)、目標値(最終年度である平成31年度の目標値)、その間に29年度末時点での現状値を記載しております。また、右端には、これはあくまで現状を分かりやすくするための参考として記載している部分となりますが、目標値に対する進捗率について「%表記」と、順調に進んでいるのかどうかという状況を、部会事務局による視点で「あくまで定性的に」ではございますが、記載をしております。また、その下に、「実績値の分析」と「事業実施における課題」、「目標値達成へ向けた取組み」、一番下はあくまで参考ですが、次期ビジョンを策定すると仮定した場合の「事業の方向性」について、各部会の意見を掲載しております。次に2-2ページでございますが、昨年度設定したKPIについて、設定から1年余りが経過し、このほど、ある程度の実</p>

績値が見えてきたことで、目標値が大きすぎたのではないか、または、事業を測る指標としてどうなのか、という課題が見えてきた部分がありましたので、現KPIの事業指標としての適正、不適正、または目標値の適正、不適正について調査し、仮に不適正な場合はどういったKPI、目標値が適当であるかを各部会に記載してもらいました。この場合につきましては、「現 KPI について」という項目がページの最上段にございますが、このチェックボックスの「別の KPI が良い」と「基準値、目標値の修正が必要（高すぎる、低すぎる）」の箇所にチェックが付いているかと思えます。「そう考える理由」といたしましては、まず、「基準値、目標値の修正」という点については、左側のページに記載の KPI のうち、「参加医療機関数」について、同じく左側のページの「実績値の分析」や「事業実施における課題」にも記載がございますが、「医師の高齢化等で廃院となり、参加医療機関数が減少しており、今後増える見込みがない」ことから、目標値の変更を行いたいということがございます。なお、その目標値につきましては、2-2のページの中ほどに「参加医療機関数」と書いてある表があるかと思えますが、こちらに記載のとおり、現在の「66件」から、平成29年度末時点での値を維持する形で、「62件」と変更するものがございます。また、「別の KPI が良い」という点につきましては、同じく左側のページの KPI のうち、2つ目に記載がございます「実施日数」について、KPI を「実施率」に変更したいというものがございます。その理由としましては、同じく2-2のページの中ほどに、「実施日数」と「実施率」と書いてある表がございますが、現在、休日等の日数（実施日数）を KPI としておりますが、年度により休日等の日数が異なるため、KPI としては「実施日数/休日等日数」の「%表記」としたいというものがございます。次に、一番下の表は「事業費」となります。29年度までが実績値、30年度以降は予定値となっております。再度数値の見直しをいたしております。なお、資料の作成にあたりまして、内容のボリュームの関係で、用紙の枠ぎりぎりまで使用している関係もあり、若干見づらくなっている部分がございます。大変恐縮ではございますが、よろしく願いいたします。最後に、めくっていただきまして、2-3ページに「具体的な取組内容」ということで、実際の事業取組みを年度ごとに記載しております。こういった形式で各事業の進捗についてまとめております。続きまして、「資料5」をご覧ください。この資料は、KPI の達成状況を一覧にしたものです。先ほど資料4で見ていただいたKPI の基準値、目標値と現状値、進捗率の欄を抜粋した形となります。この進捗率の欄でグレーになっているところは、若干進捗率よくないところになります。なお、全体での KPI の達成状況（現時点での見込み）でございますが、こちらについては表の上の方に記載をしております。全体の約6割が順調推移以上、若干下回る以下が約4割という状況となっています。こういった状況のなか、昨年10月に部会の会議を開催しまして、そこに共生ビジョン懇談会の井田会長にオブザーバーとして参加いただきました。その際に、井田会長からも、先ほど申しました KPI 未達成が約4割という現状に関し、かなり厳しいご意見をいただいたところです。この件に関しましては、昨

年度K P I を設定した際にも厳しいご意見があったところでございますが、急ピッチでK P I 策定をしなければいけない状況もあったこと、また、1 年余経過した中で、K P I の値などに関する現状での課題が出てきたということでございます。今回改めて井田会長の厳しいご意見を受けまして、事務局としては、まずは現K P I が適正化どうかを各部会に判断を仰ぐ、ということで、先ほど資料4 で一部見ていただきました「現K P I が適正かどうか」という調査を行いました。その結果が、「資料5」の右端に記載しております「K P I 変更(案)」の箇所になります。ここに、資料4 で「別のK P I へ変更したほうが良い」「目標値(又は基準値)の変更をしたほうが良い」と回答されたK P I を「ピンク色」で表示しています。K P I を変更する理由については、資料4 の方に、それぞれ詳細を記載しておりますが、例えば、「目標値の変更をするもの」の主な理由として、

- (先ほど一例としてご説明しましたが) 医療機関数について、廃院により今後増える見込みがない
- 特定健診受診者数について、被保険者数(分母)の減少による受診者数見直し
- 目標値を設定した際、単年度の実績のみをベースに目標値設定したため、結果的に目標値が高すぎる状況となった。複数年実績平均をベースに目標値を見直すといったものがございます。また、「別のK P I に変更するもの」の主な理由として、例えば、農業分野で言いますと、農業の大きな目標は「総生産額の向上」を図ることが基本目標となっておりますが、現K P I は各事業とも「栽培面積」がK P I となっているため事業指標として成果が見えづらい。よって、成果が見えやすい金額による指標で、かつ基本目標とも結びつく「産出額」をK P I とする。といったものになります。

事務局としましては、既に設定しているK P I の目標値を計画期間内に変更することが適当であるのか、についての懸念もございましたので、県の市町村課に確認を行いましたところ、県の回答としては「K P I 変更は他圏域でも行っており、現時点でK P I を変更することに対して国の縛りはない。理由付けだけはっきりしておいてもらえれば問題はない」という回答でございました。井田会長のご指摘、部会の意見も踏まえ、また、昨年度、急ピッチでK P I 設定をしたという状況もございますので、実績が見え、再精査により修正の必要性が見えてきた現時点で、できる限り最終年度である3 1 年度に目標値クリアができるように、今回K P I 改定をさせていただきたいというものでございます。続きまして、「資料6」をご覧ください。こちらは、今回のK P I の改定案について、新旧対照表としてまとめたものになります。左側が現K P I、右側が新しいK P I の(案)となります。赤字の部分が改定したい箇所になります。県市町村課からの指摘にもございましたが、今回、K P I 改定案にあげさせていただいたものは、あくまでも「理由の立つ」ものについてのみ、精査のうえで改定案とさせていただきます。また、今回の改定では、ご説明いたしましたK P I 改定の他、事業費の更新等を行っておりまして、こちらは「資料7」の共生ビジョンの冊子(今回の改正案等も踏まえておりますが)、

	<p>こちらの方に反映させております。なお、資料7につきましては、前回との変更点が分かりよう、あえて「見え消し」で作成しております。</p> <p>最後になりますが、「資料3」にもございますように、要綱の一部改正がっております関係で、「将来推計人口」を最新の数値に変更しております。以上で、説明を終わらせていただきます。</p>
井田会長	<p>ただいま、資料3～資料7の資料を使いながら各事業の進捗状況について及び今回の改定内容についての説明がありました。繰り返しですが、当初ビジョン策定時から比べると途中でKPI設定があったり、あるいは、急ぎつけたものですから指標として適正でないものがあったということで今回再度検討をしたいということでございますので、事前資料にて把握されているかと思っておりますのでご確認されていると思いますが、まずは各委員のご関心のある分野をみていただいて妥当な対応かどうかをお考えいただければと言う風に思っておりますので、何かご意見がございましたらよろしくお願いたします。</p>
中村委員	<p>山江の中村と申します。3点ほどお尋ねいたします。</p> <p>1点目は、資料4の22-1ページ、文化財のところですが、ここに球磨地域文化財広域連携協議会とでてきておりますが、平成29年8月の新聞に、文化財の保護法の大幅改正で国指定の文化財の修理を許可する権限を文化庁から市町村に移譲するということがでていました。これについて、現在球磨人吉に茅葺の国指定文化財は私が知っている限りでは8箇所ありますけれども、今後はこの協議会が中心となって修理を行っていく形になるのか、以前、文化庁からの補助金で平成25年に神社の屋根修理を1,400万円くらいかけて行い1,100万円ほどは文化庁から補助がきたが、これまでどおり修理に補助金がでるのか非常に心配しています。</p> <p>2点目は資料4の36-3ページ、鳥獣被害対策事業についてですが、交付金が国から、補助金は県からと理解していいのでしょうか？31年度の内容を見て頂きますと、熊本県特定鳥獣適正管理事業補助金のところでシカ7,700頭、鳥獣被害防止総合対策事業交付金のところでシカ8,200頭となっておりますが、シカが多すぎて国交付金だけでは対応できないため県補助をもらって駆除している、という理解でよろしいのでしょうか？それから、ジビエ対策について、平成29年4月6日新聞に政府はジビエ事業拡大に関する方策検討という記事がでていました。ジビエ料理を安定的に流通させて中山間地域向上につなげたいというものです。ということは、市町村に加工場なんかを作りなさいという趣旨だろうと思いますが、国からこういった通知はきているのでしょうか。加工場を作ったならば年間通して維持していくということは大変であり、当初は繁盛するかもしれませんが長い目で見ると大変ではないかと思えます。</p> <p>3点目は資料6の2ページ、KPIの新旧対照表で水田営農（普通作）の推進のところで、31年度の目標値は29年度実績と比較して面積は増えている、しかしKPI改定案の水稲栽培等産出額の31年度目標値は、29年度と比較して減っているため、産出額が減った理由は作付転換のためなのか、コメの価格が下がったか</p>

	<p>らなのか、これから下げていくということなのか、算出するにあたって 10 a 当たりの収穫量、価格などは 1 表当たりどれくらいで計算してあるのかお尋ねしたいと思います。本日は J A の方が欠席されておりますが、やはり困っているのが 9 月上旬頃に J A から今年のコメはこれくらいですと、非常に安い価格表が回覧されます。そのため、自分のコメがあんまり高すぎるかなと昨年から 5 0 0 円下げました。1 回下げると値上げすることはできません。なのでお願いになりますが、行政等のほうでコメの値段を安く広めてもらおうと農家としては非常に苦しいので、こういったお考えなのかをお尋ねしたいと思います。以上 3 点についてお尋ねします。</p>
文化部会（人吉市歴史文化課）	<p>文化部会の西門と申します。1 点目のご質問についてですが、人吉球磨の文化財担当部局で球磨地域文化財広域連携協議会を結成しておりまして、30 年度が茅葺建築物の修理計画を策定するため協議を重ねているところです。その修理の対象となっているものは、市町村指定以上の文化財指定を受けているものを対象として修理計画を策定しているところです。補助金については、それぞれの市町村が補助条例等を制定されていれば、そのなかでやっていただくという形になります。その中で効率的に効果的に、1 年度に修理が集中しないようにですとか実際の状況を見ながら計画的に修理ができるようにということで市町村で状況を出し合いながら現在協議をしているところです。補助金につきましては繰り返しになりますがそれぞれの市町村で予算措置をしていただいておりますと、また、一部管理者様の負担も必要になってくるとそういう状況でございます。以上でございます。</p>
鳥獣害対策部会（湯前町農林振興課）	<p>鳥獣害対策部会の湯前町 澁谷と申します。2 点目についてお答えいたします。まず資料の 3 6 - 3 ページに、鳥獣被害防止総合対策事業交付金事業、熊本県特定鳥獣適正管理事業補助金というのがあります。国からの補助金か、県からの補助金かということで名前が分かれています。シカ対策に関するこの交付金と補助金の違いについてですが、中身につきまして同じ内容でございます。シカでいうと 1 頭 1 万円、イノシシでいうと市町村で異なりますが湯前町の場合は 9,000 円、サルであれば 5 万円という事業でございます。また、頭数についてですが、各市町村とも国に申請する頭数と県に申請する頭数、おそらく全市町村とも同じ頭数を国、県にそれぞれ申請されると思いますが、国の予算枠、県の予算枠があり同じ頭数の補助金がくるというわけではない状況です。平均をとりましてこういった数値となりました。付け加えて報告させていただきますが、シカでいいますと 28 年度でいいますと国が 6,757 頭、県が 6,862 頭と記載しておりますが、合計で約 13,000 頭を捕獲したのかということではなくて、国県の補助金を利用した頭数がこの頭数ということになります。次に、ジビエにつきましては、捕獲からジビエ加工施設まで運ぶ課題がまだ今のところ多くありますため、定住自立圏構想のなかでは今のところはまだ考えていない状況でございます。以上でございます。</p>
農業部会（あさぎり町農林振興課）	<p>農業部会を担当しておりますあさぎり町の万江と申します。3 点目のお尋ねの件ですが、水稻栽培面積が減っている主な原因は、基本的には主食用米から飼料用稲等への作付転換がかなり進んでいると、これは以前から 8 年か 9 年かになると思</p>

	<p>ますが飼料用米への作付政策ができてから、それができてからこの数値が伸びている関係上、水稻栽培面積も少なくなってきたという状況です。今後もその政策が続く限り飼料作物を作ればその供給先もちろん上限がありますのでその辺でどうなるかというのはありますが、しばらくは減っていくようなことになるのではという風に考えております。しかしながら米だけではなく、麦、大豆、その辺も総合的に考えていくべきと考えておまして、今後はその辺も総合的に力を入れまして作付のほうを推進してまいりたいと考えております。お尋ねの水稻に対する 10a 当たりの収量につきましては詳細には把握しておりませんが、500 kg ちよいだったと思うんですが、本日 JA さんがいらっしゃらないこともありますが、価格については経済連のほうからお示しいただく形になっておりますので、それも年によってさまざまというところでそういう現状であるのかなと考えております。それに付け加えて、30 年度から米に対する国の直接支払交付金が 7,500 円ありましたが、それもなくなりまして確かに米の作付面積については今後も非常に厳しい状況であろうと考えております。ただ、この事業については米、単なる水稻だけの話ではなくて先ほども申しましたとおり、麦、大豆、焼酎米、その辺りにつきましては人吉球磨全体の取組む面積的には横ばいか増えている状況です。ただこれにつきましても県の単独事業で産地交付金というものがありますが、この辺の今後の見通しといえますか、焼酎米につきましては加工原料米多収化推進事業というものがありますがこの辺の枠も今まだ残っております。多収化支援助成事業については反当たり 5,000 円、多収加算金でキロ当たり 60 円というのがございます。今後の見通しについてはこの辺についても県の考え方次第ではありますが、縮小傾向になるならないについては現在回答は得ておりません。ただこれが、もしも仮に縮小された場合でも、今の国の制度でどうなるかは分かりませんが、経営所得安定対策交付金ということで、加工用米の交付金の額は結構多くございますのでそう簡単には減少傾向にはならないという風に私としては考えているところでございます。すみません、的を得ていないかもしれませんが以上で終わります。</p>
中村委員	ありがとうございます。
井田会長	はい、その他何かご質問、ご意見はございましたらよろしくお願ひいたします。
小谷委員	<p>小谷でございます。このたびは初めて参加させていただきます。資料 4 の 10-1 ページについて、次期ビジョン策定へ向けての本事業の方向性（部会事務局意見）で、31 年度末に事業廃止ということで理由等が上に書いてございます。私が気になったのがこういったシステム等の変更というのは経費がかかる、手間がかかる等色々書いてあり理解できるところではございますが、この定住自立圏のそのものの 1 つに ICT、人吉球磨圏域の行政の面から見たところの効率化というか、そういった面もあると思います。そのなかでたまたまこの健康管理システム、これだけを言っているわけではなくてこういったものについては定住自立圏かどうかは別としておそらく取り組んでいくような分野、そういうところで効率化を図っていくのは避けて通れないと思っているところですが、お尋ねしたいのはそういったものに対</p>

	<p>して困難性があるから無理だなと手をあげられたように読み取れるのですが、そういうことではなく、この定住自立圏では色々あるけれど、という意味なのか、要するに廃止という言葉に私は違和感を感じたものですから、全体の流れの中で先ほど申しましたシステム改修や共同化、そういったものは人吉球磨の中でやっていく優先度は高いのではという認識を持っておりますので確認の意味でお尋ねしたいと思います。</p>
<p>健 診 部 会 (人吉市保健センター)</p>	<p>健診部会を担当しております、人吉市の淵上と申します。ここに書いておりますのは健康管理システムの部分だけで今回書かせていただいております。色んな所で健診機関もたくさんありますし、おっしゃっていただいたように各市町村でシステムがそれぞれ異なっておりまして、なかなかこれを一元化するというのを健康部門だけでやるというのは非常に厳しいところかなというところで記載させていただいた次第です。健康管理システムについてだけで考えますと31年度までにこの事業自体を達成というのは各町村の課長様等のいただいた意見も踏まえてまとめたところではあります。現時点では非常に厳しいものがあるということで書かせていただいております。委員がおっしゃったのが、健康管理システムに限らず全体的に色んなシステムをという事になると、すみません健康部会だけでなかなか答えられる部分ではないのかなと思ったところでございます。</p>
<p>小谷委員</p>	<p>事情はよく理解できますので、そういった疑問を持ったという事でとっていただければ結構です。</p>
<p>井田会長</p>	<p>資料4の10-1ページでいえば、単純に考えれば1本化すればと思うところですが、コストの面であつたり色々事情があると思いますが、次期ビジョンでこういったシステムの統合化というのをしていかないと10の異なる市町村で共通の事業をやろうという時にやはりそれが足かせになるのではないかと、できれば各自自治体と同じ思いを持っているのであればこれを上げてシステム統合へ向けて最終費用でできる術を考える余地はないのかということだと思いますので、確かに個別に聞いていくとおそらくすごい壁にぶち当たると思いますので、出来る限りそうしたシステムの統合化、共有化が必要な事業をまず全部精査して何が最大のボトルネックであるのか検討したうえで果たしてそれは本当に実行不可能なものなのかと、再度十分検討をして、部会のみで検討するとかかなりアップアップするかと思いますのでそれは複数の部会にまたぐ、あるいは部会の枠を超える、あるいはそれぞれの担当課でやると、部会で全てコンプリートしなさいという話ではないので先ほども話しましたように同じベクトルの方向でやろうというので、これは必要なんだと、持続可能な人吉球磨にするために必要なんだというものについては再考の余地があるのではないのかというのが委員のご発言かと思っておりますので各部会のメンバーの方々もその点を十分認識していただければと思います。その他にご質問、ご意見はございますでしょうか。</p>
<p>各委員</p>	<p>(質疑なし)</p>
<p>井田会長</p>	<p>よろしいでしょうか。それではまた後ほど思い出されましたらご発言いただければ</p>

	<p>ばと思います。それでは続きまして協議事項「(3) 今後の進め方について」を議題とします。事務局から説明をお願いします</p>
事務局	<p>それでは、今後の進め方、想定されるスケジュールについて、ご説明申し上げます。今年度、平成30年度につきましては、本日のビジョン懇談会のご意見を踏まえまして、2月14日に開催を予定しております、各市町村長で構成いたします「推進協議会」に、共生ビジョンの改定案をお諮りいたします。その席で承認をいただきますと、ビジョンの改定となります。次に、次年度（平成31年度）以降の想定されるスケジュールについて、でございます。この共生ビジョンにつきましては、皆様ご承知のとおり、来年度、31年度までの計画となっております。つきましては、この共生ビジョンを今後、どのようにしていくのかという議論となっておりますが、こちらにつきましては、この定住自立圏を継続するのか、次期（第2期）を策定するのかについて、先の「推進協議会」にて方向性をお諮りする形となろうかと思っております。ちなみにはでございますが、定住自立圏の全国の状況について、昨年度時点のものではございますが、若干ご説明いたします。全国の取組状況を見ますと、早期（平成21年～22年頃）に取り組まれた圏域では、ほぼ第2期の共生ビジョンを作成され取り組まれているようでございます。九州管内でも、現在、22の圏域で定住自立圏を形成されておりますが、早期に取り組んだ圏域は、すべて第2期へ移行されております。熊本県内でも、現在7圏域（福岡県と熊本県の県境である有明圏域（大牟田・荒尾）を含む）にて取り組みが進められておりますが、そのうち、有明圏域、山鹿市がすでに第2期に移行されております。当地域におきましても、現在の共生ビジョンが平成31年度に終了すること、また、全国、九州等の状況を鑑みまして、共生ビジョンの第2期への移行等について、構成市町村間にて検討を開始する必要がある場合がございます。なお、仮に「第2期へ移行する」となった場合につきましては、31年度に改定の作業を行っていくこととなります。その際には、第1期を策定したときと同様に、数回程度、ビジョン懇談会を開催し、皆様からご意見を頂戴できればと考えております。皆様、お忙しい方ばかりとは重々承知しておりますが、その際は、何卒ご協力を賜りますようお願い申し上げます。また、現在締結している「定住自立圏協定」につきましては、期限の定めはございませんが、協定の内容を変更する場合には、変更箇所について「変更協定」を締結する必要があります。こちらにつきましては、事務方の話ではございますが、全市町村で同文議決を行う形になろうかと存じます。以上でございます。</p>
井田会長	<p>ただいま事務局より今後の進め方についての説明がありましたが、31年度で現計画は一応終了いたしますので、そのための変更等につきましては先ほどの議事でご審議頂いた点でございます。今後の展望等につきましては推進協議会のほうで決まります。現時点においては次期計画については決まっておきませんが、他圏域でいいますと私に関わっております天草圏域のほうで次期ビジョンを現在3月議会にかける目標で最終調整をやっているところでございます。先ほど事務局でもありました通り、定住自立圏をやめたという事案はございませんので、そういう意味では</p>

	<p>次期ビジョンへつながるのではないかという予想はしておりますので、もし各委員から次期ビジョンを策定するならばこういった点に視点を置いて欲しいというものがありましたら委員の皆様から各部会のほうにご発言いただければと思います。何かございますでしょうか。</p>
<p>岐部委員</p>	<p>私は医師会長ですけれども、私に分かるのは保健医療のところだけですけれども、例えばこれを見て新しい事業というのはほとんどないですよ。既に行っている事業に予算がついてという状況かと思えます。人吉球磨は財政的にかなり硬直化しているから国からの援助をもらって既にやっていることにつきこんだのではないかなと、それは悪いことではなくて仕方がないと思いますが、例えば産科・小児科医療体制維持検討・支援事業を見てみると、例えばですよ、30年度の具体的取組内容のところに、医師確保のために医療センター及び公立多良木病院と共に市町村長代表者が熊本大学医学部へ医師の確保へ向け相談に出向くと書いてありますが、例えば多良木公立の事務長もここにいらっしゃいますがここに出向いて医者が来ると思えますか？来ないですよ。私が思うに例えば「地域枠」という医師がいるのは知っていますか？地域枠があるんですよ。これは1つのアドバイスで直接関係ないのかもしれないですけど、医師を確保するのに地域枠というのがいて熊大なんかは偏差値が高いですよ。ところが地域医療に従事する方はちょっと偏差値が高いよりも田舎へ行って働こうというそういう医師のほうが大事なんですよ。人吉球磨だけでなく阿蘇であったり有明とか、そういう医者が足りないところの市町村と一緒に熊大や県にあって地域枠を広げてもらう、今の地域枠が問題なのは通った人がお金を返せば田舎に行かなくて良い仕組みであり非常に不都合なんです。例えば人吉で、熊大は通らないかもしれないがかなり優秀な人が将来人吉に帰って多良木公立病院に勤めたいと、そういう人を地域枠で確保するシステムを作るわけです。すると医者の確保がたぶん多良木公立病院の大島先生もかなり苦労しておられると思うんですよ。人吉の場合は医療センターはJCHOだからいいけれど、あれが市民病院だったならば市長は医師確保にもものすごく苦労するはずですよ。その点を考えれば、私であったり多良木公立病院の大島先生や木村院長などビジョン策定の時に呼んでもらって聞いてもらえれば医師確保のところは専門なのでアドバイスができますので。ただその他のことは専門ではないので全然分かりませんが、これは1つの意見として聞いてもらったらいいと思います。今後、この地域では人材というのが減ってきます。私は人吉に来て30年になります人吉医師会の面子をみてください。みんな年を取ってきています。若い人が減っています。とにかく人がいないんです。</p>
<p>井田会長</p>	<p>医師の話は天草でも同じようにできています。人吉球磨の現ビジョンでは資料4の6-1のように准看の事業は入っているんですが医学部進学とかは入っていないんですよ。天草は今を入れてまして実際奨学金を受けている学生かなりいます。それは予算をつけようということ。そして戻ってきてもらおうということ。今、岐部委員がおっしゃられたように若い医師がいなくて何かと住民も困るので。そして</p>

	<p>やはり実効性のある事業を作るためには、関係当事者の意見を聞き実行可能な事業かつ人吉球磨圏域で実行可能にさせるための事業といった視点を含めたうえで、次期ビジョンがあるならば検討して欲しいと思います。その他各委員の皆様でご意見、ご質問ございませんでしょうか。</p>
<p>竹原副会長</p>	<p>竹原でございます。資料4の31-3ページ、観光のところでお尋ねします。平成28年度と平成29年度について「人吉球磨は、ひなまつり」ということでこの時期非常に賑わっており各市町村で各施設にひなまつりを飾っているんですが、多良木の場合を言いますと石倉を町からお借りして40日間の事業を行っています。2月に天草から30人とか3月には150人とか、だいたい40日間で4,000人くらいの方がお見えになります。1日平均30人多い時で100人くらい来られます。私たちはボランティアで1日3名くらいで交代で接待しています。接待されない箇所もありますが多良木の場合は皆さんが作ったものを飾ったりしながら少しの利益をもって運営をしているところですが、ここに書いてありますようにチラシやポスター作製、女性限定おもてなしサービスなどの名目があがっておりますが、多良木には4,000人ほどのお客様が来られるなかで、私たちが接待する際のお金がなかなかない状況。予算をなるべく自分達で作ったお金でお饅頭を作ったりお茶をだしたりしているわけですが、これについてお尋ねしたいのですが、今から先も毎年ここに書いてあるように、スタンプラリーやポスターやチラシの作製を計画されているのかをお尋ねします。</p>
<p>観光部会 (人吉市観光振興課)</p>	<p>人吉市観光振興課の池下と申します。旬夏秋冬キャンペーン事業のなかでひなまつり事業、立ち上がってからもう20年近く継続して行っているイベントなんですが、まずこの事業の主催が人吉球磨広域行政組合が事務局をもっております旬夏秋冬キャンペーン事業のなかの事業ということでその組織体のなかで毎年度事業計画がなされて予算も含めその中でなされておりますので、今後の見通しについて私達も1自治体として参加している状況のため人吉市の意見だけで動けるものではない、そういった風に理解しておりますのでこの場での回答は申し上げにくいかなと思っております。ただ、ひなまつり事業は女性向けのイベントということで、なかなかアイデアがでつくしている感もありますので、人吉市としましてはやはり宿泊に結び付けれるような長期滞在していただけるような工面がもう少し必要かなと考えております。そのためにも上球磨、中球磨方面にも行っていただかないとそれぞれの自治体が潤いませんので広域連携というのが引き続き必要かなと思っております。接待に関してなんですが、民間さんの方で会場で色んな工夫、おもてなしをされているかと思えますけれどもそれに対しての補助というのが事業のほうでも工面していただけるかというのは今後、そちらの事業会議のほうで確認したいと思っております。ちなみに、31-2ページに各市町村の事業費をあげておまして人吉市では旬夏秋冬の事業のほうにお支払いしている状況ですが、その他の町村さんにおかれましては各自でひなまつり事業に対しての事業費をこれだけ費やしていらっしやるという報告を受けておりますので各町村でこのような予算措置がある自治体</p>

	<p>もありますのでそちらのほうでご相談等をなさっていただければよろしいかなと思っております。以上です。</p>
竹原副会長	<p>ありがとうございました。これから、今後の進め方についてまたお話がある時にはよろしく願いいたします。あとは接待費のほうについてもちょっとあげていただければと思っております。私たちが笑美寿のびる会というのを作って高齢化しておりますが毎年石倉にいっぱい飾っております。とにかく自分達で交替でしておりますのでどうぞその辺りも考えて頂きましてよろしく願いいたします。</p>
井田会長	<p>それでは各委員様また何かご質問等ございましたら事務局のほうにご連絡いただければと思っておりますのでよろしく願いいたします。本日予定されておりました議題はすべて終わりましたので事務局のほうにお返しいたします。</p>
事務局	<p>井田会長、ありがとうございました。それでは、次第の8.「その他」へ移らせていただきます。議事は終わりましたが、委員の皆様から何かございませんでしょうか。</p>
各委員	<p>(意見なし)</p>
事務局	<p>それでは、他に無いようでしたら、以上で、第1回人吉球磨定住自立圏共生ビジョン懇談会を終了させていただきます。 本日は誠にありがとうございました。</p>